

12月度「京都学ラウンジ ミニ講座」（開催報告）

2020年12月24日
京都学・歴彩館
075-723-4835

京都学・歴彩館では、京都について学ぶ楽しみを広げる目的で、毎週木曜日に「京都学ラウンジ ミニ講座」を開催しております。この度12月17日（木）・24日（木）に「都と鄙を行き交うひとびとと一室町時代の旅と京都一」と題して、2回開催しましたので、下記のとおり報告します。

記

- 日 時 2020年12月17日・24日
いずれも木曜日13:30～14:30
- 会 場 京都府立京都学・歴彩館 1階小ホール
- 参加者数 73名（17日）、65名（24日） 合計138名
- 内 容
講師 京都府立京都学・歴彩館 京都学推進課 川口 成人
「都と鄙を行き交うひとびとと一室町時代の旅と京都一」（全2回、前後編）

■ 講座の様子

室町時代の京都は武家政権たる幕府の本拠地となった。これにより、地方との交流は、前代にもまして重要になったと考えられている。今回のミニ講座では、室町時代に京都と地方を旅したひとびとを取り上げ、当時の社会の一側面について解説した。

前編では、三代将軍足利義満の厳島参詣を中心に取りあげた。義満の厳島参詣は、約一ヶ月に及ぶ長旅であり、随行した人物が残した紀行文より、船旅の様相を詳しく知ることができる。瀬戸内海沿いに栄えた港町で現地の守護・領主より歓待を受けるなど、ある程度は計画どおりに旅が進んだが、いっぽうで荒波や風雨によって船中泊を余儀なくされることもあった。また、紀行文には瀬戸内海沿いの風俗が紹介されていることにも触れた。

後編では、室町時代の宿泊事情や関所通交を中心に取り上げた。室町時代には、屋号を持つ旅館が確認される。京都周辺のある程度の範囲では同一宿泊料による営業がおこなわれており、陸上・海上の交通網の発達にともなって旅館業も発展していたことがうかがえる。また、当時多数設置された関所を通行するための過所や過所旗と、その機能についても解説した。さらに、旅先の寺社への落書きや京都と地方の旅のつらさを述べた史料も挙げて、旅に関する史料のおもしろさを紹介した。

絵画史料も交えた講座に対し、終了後には多くの質問が寄せられ、好評を得た。

